



よりよく生きていくために 大切にしたい道徳性とは？

校長 浮ヶ谷 優美

「災害級」という暑さ、南海トラフ地震臨時情報、台風の接近等心配ごとが多く、ご家族の安全を守るために心を砕いた夏休みだったことと思います。御家庭にお子さんを託した長い夏休みが終わりました。「お疲れ様でした」と保護者の皆様をねぎらいたと思います。今日からはエネルギーをたっぷり充電した子どもたちが、存分に力を発揮できるような教育活動を学校で展開していきたいと思えます。

さて、夏休み前半はパリオリンピックの話題で盛り上がりました。史上初となる船による開会式の選手入場では、各国の選手の晴れやかな笑顔と伝統あるフランスの街並みが印象的でした。私は競技の勝敗よりも、選手一人一人のオリンピックに出場するまでの過程に思いを巡らせてしまいます。天賦の才能、人並み外れた努力の積み重ね、それを支える環境があったからこそ、オリンピックという場に立っている選手に、勝負の神様は無情にも一人にしか微笑まないのは、切ないことです。熱戦を終えた選手のインタビューを涙なしには見られません。特に日本の選手は、勝者敗者にかかわらずどの選手も、自分を「支えてくれた人への感謝」の言葉をしっかりと語っていたことがとても印象的でした。支えられて生きていることを常に意識しているところが、日本人のすてきなところだなと感じます。

選手村の運営等においても、「思いやり」や「おもてなしの心」など3年前の東京大会について、相手意識の高い日本の国民性が再評価されました。日本の教育の積み重ねが、こうした国民性の基盤になっており、

日本の教育が世界から評価されていることをうれしく思った話題でした。

「教育」は人づくりです。よりよく生きるための基盤となる道徳性を養う学習が道徳科です。私が所属する東京都小学校道徳教育研究会では、道徳科の学習について東京都内の児童と教師に調査を実施しました。学習指導要領における道徳の内容項目(中学年対象20)から、よりよく生きるために大切だと思うものを回答してもらった結果は次の通りです。

【児童】①生命尊重(77%) ②努力(72%)

③思いやり(71%)

【教師】①善悪の判断(73%) ②思いやり(70%)

③正直(49%)

児童・教師ともに「思いやり」は上位3つに入っており、相手意識の高い日本人の国民性がこうした調査からもうかがえる結果です。教師の1位となった「善悪の判断」は、よりよく生きていくために、善悪の判断ができる人になってほしいという教師の願いが込められていることを感じました。この調査をとおして、よりよく生きていきたいと子ども自身が課題意識をしっかりと持っていることに改めて気付かされました。

「教える」だけでなく、子どもたちも持っている願いや思いを引き出し、学びにつなげていくことの大切さを再認識しました。本校では、教師が教えることはしっかりと教え、子どもに考え選択させ、教師と子どもが共に学びを創り上げていく教育活動を手探りしつつ引き続き二学期も進めていきます。

祝合唱団 金賞受賞！ NHK全国学校音楽コンクール東京都コンクール小学校の部本選

東京都大会には31校が出場し、予選を通過した11校にて本選が行われました。本校は優れた音楽性を高く評価され、上位3校(金賞)に選ばれました。金賞受賞校3校は東京都の代表として、関東甲信越大会(13校出場)に進み、全国大会(13校中の上位3校出場)を目指します。